

第55回高エネルギー加速器研究機構経営協議会議事要録

日 時 平成29年6月21日（水）10時30分～12時35分

場 所 KKRホテル東京11階「白鳥の間」

出席者 金山、木村、小出、郷、住吉、田島、西島、長谷川、山内、野村、岡田、石井、
山田、山口、佐々木 各委員
(欠席者 合田、児玉、武田、神谷、徳宿、齊藤 各委員)

陪席者 大田監事、北村監事、小林総務部長、大淵財務部長、山中研究協力部長、木村施設部長、宮本参事役、柴沼総務課長、河津主計課長、坪決算室長、引野広報室長
ほか

配付資料

1. 第5期高エネルギー加速器研究機構経営協議会名簿
2. 前回議事要録（第54回）
3. 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
4. 平成28年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について（案）
 - 4-1. 平成28年度決算の概要
 - 4-2. 平成28年度財務諸表等（案）
 - 4-3. 平成28年度決算報告書（案）
 - 4-4. 平成28年度事業報告書（案）
5. 平成30年度運営費交付金（機能強化経費）概算要求事項等一覧（案）
6. 平成30年度施設整備費概算要求事項一覧
7. 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）

議事に先立ち、山内議長より開会の挨拶があった。また、岡田（泰）委員と渡邊委員が3月31日付で経営協議会委員を辞任し、新たに4月1日付で木村委員と長谷川委員が、6月1日付で田島委員が、更に機構内委員に異動があり竹内委員に代わって、5月1日付で石井委員が就任した旨、報告があり、新任の委員から挨拶があった。

なお、規定により経営協議会委員の過半数は機構外委員である必要があるため、機構内委員である神谷委員が一時的に委員を外れていたが、田島委員の就任により、神谷委員を加えた21名による構成となったことについて報告があった。

引き続き、事務局から配付資料の確認が行われ、資料1の前回議事要録については、既に確認いただいているため確定版として配付している旨、説明があった。

議 事

1. 審議事項

(1) 平成 28 事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

野村委員から、資料 3 に基づき、平成 28 事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

<主な質疑応答>

- ・ 夏季の運転停止による電力料削減の効果は。また、夏季の運転の可能性はあるのか。
 - 夏季の電力ピーク時に使用電力を抑制することにより電気料金の割引を受けてきたが、電力会社からは、今後、割引制度が廃止になると聞いているので、経済的なメリットは小さくなる。夏季は、最低でも加速器のメンテナンスのための停止期間が必要であり、更に夏の高温多湿に対応する設備機器の能力を考えると、夏季の運転は簡単に行えるものではない。
- ・ 科研費申請支援強化により、前年度比 5%増、直近 5 年間で最高の申請数になったとのことだが、採択数はどのくらい増加しているのか。
 - 申請数の増加に伴い採択数も増えたが、獲得金額は減少した。この原因は、大規模な課題が減ったためであるが、多くの人が申請するようになり、採択件数が増えたという点が、まずは成果と考えている。
- ・ PF で「試行施設利用」、「利用支援」、「代行測定・解析」の仕組みを構築し、運用を開始したとあるが、実績と今後の見通しはどうか。
 - 平成 28 年度から、まずは開始した、というところで、利用件数はこれからである。現在、これらの仕組みを、分析受託企業と協力しながら運用することを検討している。
- ・ 共同利用者に占める大学院生の割合が非常に大きい。大学院生への教育という点で大学への貢献も大きいのではないかと。
 - KEK の施設を使った実験で書かれた学位論文も相当数あり、研究だけでなく、教育の面での大学への貢献は大きいと考えており、今後 PR していきたい。
- ・ 女性研究者を増やしていこうとすることについては、よく取り組んでいると思うが、結果につながる実効的な取り組みを期待したい。
 - 現状、応募者の中の女性の割合と、採用者の中の女性の割合に有意な差は無いので、応募者の中の女性の割合をどう増やしていくかを考えている。先を見据えた取り組みとして、例えば理系女子キャンプという女子高校生に理系を選択してもらうことを企画した取り組みを行っている。博士課程に進む女性がどのようにしたら増えるかなど、いいアイデアがあればご教示いただきたい。
- ・ 施設利用に関して、利用者数は年次推移として増えているか。
 - 放射光施設の利用者について言えば、利用者数は横ばいか若干減少している。財源の問題により運転時間が減少し、実験に利用できる時間が減少しているためである。
- ・ 放射光施設を利用できる時間が減少している状況で、分析受託企業と協力して、サービスの範囲を広げるために、どのようなことを行うのか。

- 施設利用料として得た収入を基に、少しでも運転時間を増やしたいと考えている。
- ・ 代行測定・解析等を導入することで、これらのサポートが必要となり、職員の本来の研究に割ける時間が減ってしまうことへの不満は出ないか。
- この仕組みにより得た収入で、現場で従事する職員を雇用することを考えている。

(2) 平成 28 年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

石井委員から、資料 4 に基づき、平成 28 年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

<主な質疑応答>

- ・ 収入の大部分を占める運営費交付金について、どこの機関も毎年減額されていると思うが、KEK はどのような状況か。
- 厳しい予算状況が続いており、人件費については KEK 独自の人件費削減計画を実施している。なお、一般運営費交付金で実施していた研究プロジェクトについては、縮小せざるを得ない状況である。

(3) 平成 30 年度概算要求（運営費交付金関係）について

石井委員から、資料 5 に基づき、平成 30 年度概算要求（運営費交付金関係）について説明があり、資料のとおり了承された。

2. 報告事項

(1) 平成 30 年度概算要求（施設整備費関係）について

木村施設部長から、資料 6 に基づき、平成 30 年度概算要求（施設整備費関係）について報告があった。

(2) 平成 29 年度の年度計画について

野村委員から、前回の会議で審議いただいた、本年 3 月末日までに提出することになっていた平成 29 年度の年度計画を文部科学省に提出した旨の報告があった。

(3) 第 2 期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について

野村委員から、資料 7 に基づき、第 2 期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。山内議長から、今後、評価を受けるにあたり、具体的な対応について考えていきたい旨、発言があった。

(4) BelleⅡ実験の準備状況（測定器のロールイン作業完了等）について

山内議長から、BelleⅡ実験の準備状況について、4 月に測定器をビーム衝突点に設置する「ロールイン作業」を完了したことの報告があった。今回、ロールイン作業をニコニコ生放送で生中継したところ反響が大きく、新聞各紙にも取り上げられたとの報告が

あった。また、今回の生中継を通して、ネットニュースが大きな影響力を持っていることの認識を得たこと、更に今回の成功を分析し、別の機会でも活かしていくことが重要であると考えている旨、発言があった。

(5) 今後の KEK の広報戦略について

引野広報室長から、今後の KEK の広報戦略について、KEK 広報の現状と課題を分析し、人々が関心を持つニュースの発掘、SNS などデジタルメディアを活用した広報の強化、などの取り組むべき方向性について、説明があった。

<主な質疑応答>

- ・ 大学では最近、授業の一部をウェブ上で公開する取り組みを行っており、アクセス数も多い。KEK でも一般向けに講義を公開してはどうか。
- ・ 広報戦略は、まずターゲットとする層を定め、どのような内容を発信するか明確にしないとなかなか効果が表れない。高校生向け、一般社会向け、企業向けと対象を分けて広報戦略を立てるのがよい。
→ KEK はこれまで主として、子供たちを対象にイベントなどを行ってきたが、より成果を上げていくため、広報の対象者や内容を検討していきたい。
- ・ 総研大の大学院生の確保のためには、各基盤機関の広報戦略にかかっている部分も大きく、よろしくお願いしたい。

3. 自由討論

<主な質疑応答>

- ・ KEK で最も重要なことは、質の高い研究論文を発表し続けることであると考えている。一般の国民にあまり馴染みがなくても、KEK 全体として何を目指しているのかというポジショニングを示すことが重要であると考えている。広報が分かり易くなることはもちろん結構なことだが、KEK の広報は多少不器用なくらいがいいように感じる。
→ 十分不器用であると考えている。例えば、昨年度作成した「一家に 1 枚」の水素ポスターも不器用だが、読んでいくと味のあるものである。なお、ポスターは物質構造科学研究所の広報担当が中心となり作成したものであり、題材としている水素は、昨年度、発見してから 250 年の節目のものであった。
- ・ 業務実績報告の中で、寄附金の収入が前年度比で 5 倍も増えたとのことだが、その要因は何か。
→ 昨年度から寄附金事業を推進するための体制を構築し、新たな事業である一般寄附金事業を組織的に取り組んできた成果であると考えている。
- ・ KEK では、研究倫理、利益相反、情報セキュリティ等に関してのコンプライアンス研修を開催しているとのことだが、研修の対象者と開催頻度について教えてほしい。
→ 新規で採用された者への初任者研修として行うものや、全職員を対象に行うものもある。研究倫理に関しては、e ラーニングシステムを用いて行い、受講率を高めている。

法令遵守（コンプライアンス）、利益相反、安全保障輸出管理、情報セキュリティなどの研修では、担当理事や外部の専門家による講義を実施している。これらは頻繁に開催しているものではない。

- ・ KEK は夏季が運転停止期間となるが、外国の研究施設も同様であるのか。
 - 夏季の運転停止は日本だけである。欧州の研究施設では冬季に電気代が高くなるため、その時期に運転停止している機関もある。ただ、日本ほど長期間運転停止することではなく、例えば欧米の放射光施設では、年 5,000 時間程度のユーザーのための運転時間を確保しており、国が運転経費を負担している。
- ・ 日本には放射光施設が複数あるので、年間を通じて、どこかの施設が稼働していると良いのだが。
 - 以前は SPring-8 と年間の運転スケジュールについて調整し、なるべく両者ともに運転を停止している期間が長くないよう調整していたが、財源の問題により、現在は年間の運転時間が限られている状況であるため、調整の余地がなくなっている。

4. 閉会

山内議長から、閉会の挨拶があった。

(以上)